

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
閲覧・ダウンロード
は禁止です



♡ウブで内気な幼馴染に
えっちの練習台に指名された僕

**この物語はフィクションです。
登場する人物・名称は架空であり
実在のものとは一切関係ございません。**



明日の準備は完了じゃ…。

ん…。

僕は中村 ユウタ。
高等学園に通い始めて
今年で2年目。

翌日の学校の準備がやっと終わった。

時計を見ると
時刻は22時近くになっていた。

そろそろ寝るか…と
ベッドに向かおうとしたとき…。

1/20-1/21



ふと僕のスマホの画面に
ログインの通知が来ているのに気が付いた。

友だちが少ない僕に
ログインしてくれる相手なんて
1人しかいない。

僕の幼馴染の成海だ。
なるみ

今連絡をくれたのは僕の幼馴染で、
唯一僕が普通に話せる女の子だ。

幼稚園の頃からの高校まで
同じ学校に通っていて、
気づいた頃には仲良くなっていた。

今の学校では所属するクラスが違うから、
顔を合わせる回数は
最近あまり多くないけど…。

彼女は引つ込み思案なタイプだから
口数は多い方じゃないけど、

幼い頃からの僕との知り合い
ということもあって
互いの距離感はわりと近い。

ロインではいつもお互いに
冗談を言ったりだる絡みして、

適当に返し合うような

昔からの友達みたいな関係が続けていた。

早速ログインのアプリを起動して
彼女のトーク画面を開く。

LOINE

ええっとなになに…っ

なるみ

ね

つぎの土日
空いてたりする？

空いてるよ

土日の予定…？

なるみ

ん!

じゃあ
土曜のひる、
時間空けといて

わかった

特に予定も無いし…
『わかった』と……。』

幼馴染とはいえ…

女の子からの誘いに断れるはずもなく
脳死で了承してしまった。

でも、一体何の用だよ。

高校に入ってから

成海ちゃんから予定を空けてと
言われたのは初めてだな…。

そのことがちょっと気になったけど、
押し寄せる睡魔の波にのまれて
そのまま眠ってしまった。





土曜日
当日

成海ちゃんに呼び出された当日。

彼女からは

直接家に来るように言われている。

うう…、チャイム押すだけだったっていつの間に
なんだが緊張するな…。

ほぼ1年ぶりに対面するからだろうか。

それとも家に呼ばれたことで

何か期待しちゃっているのかな…。

僕は意を決してチャイムを押した。

ピポーン...

おっ、おっ、おっ...

1719...

A character with short, dark hair and large breasts is shown from the chest up. She is wearing a dark purple, high-necked turtleneck sweater. Her expression is neutral, and she has a slight blush on her cheeks. The background is a blurred outdoor setting with a building and some greenery.

成海ちゃん、久しぶり

チャイムを押すとすぐに
成海ちゃんが玄関から出てきた。

出てきた彼女を見て、
まずその容姿に驚いた。

で、デカっ…!!



一年前会ったときは
普通の女の子って感じだったのに。

成長期、にしても成長しすぎだっ…!!



玄関でもなんだし、
とりあえず上がってよ。

うん。
うん。

彼女の言葉に促されるまま
僕は彼女の家に入った。

そのまま直接彼女の部屋まで通された。

成海好みで、壁かぶりペンダライトまで
ピンク色で揃っている部屋だ。

てっぺりにペンゼン

話をするのかと思ってたけど

この後いったい

何を切り出されるんだろ。

さりげなく彼女を見ると、
僕よりも緊張しているみたい…。

適当に座って、うん。

うん

自分よりキョドっている彼女を見て
なんだか少し落ち着いてきた。

彼女に做って
僕も適当に彼女の対面に座る。

んつと…久しぶりだね

急に呼び出つていぬえね。

いつもロインで話してたけど
実際に会うのかなり久しぶりだから
なんか変な感じるね…？

ゆ、ユウタくんは
最近調子どう…？



成海ちゃんは喋ることを用意していたのが、
一方的にまくしたてるように話しかけてきた。

あつ...

あつ...

キョウ...

確かに僕も
急に来てほしいなんて言われて
僕もびっくらしたけど...

まさか世間話するために
家まで呼んだわけじゃないんでしょ？

本題…
うう…そっだよな…。

ごめん
どう切り出せば
いいか分からなくて…。

彼女は前髪をいじりながら
もじもじしている。

昔からの癖らしく
緊張しているときはいつもこんな感じ

もじ

づ…

もじ

もじ

ゆっ…!!

ゆっ…ユウタクをって
今付き合ってる子とかいないよね…!!

え、まあ
いないけど…

えっ

ア、
ほっ……

アアア

(分かりやすく
ホッとされた……。
……けどそれで……)
……

アアア

アアア





単刀直入に言うと…

私のえつちの練習に
付き合ってもらいたくなって
思ってたさ…!!

いや、なんでー!?



話の切り口が鋭角過ぎて
思わず大声でツッコんでしまった。

だって……

こんなこと頼める男の人、
他に知り合いに居ないし……

モジ

モジ

いやいや、誰にだって

普通こんなこと頼まないから!!

とりあえずワケを話してよ



モジ♡

モジ♡

モジ♡

モジ♡

かっ♡

ゆ、ゆ、ゆとどほ
分かつちやうめね…

個人的な話なんだけど…
えっと…



この前友達と話してて
ちよつとH系の話の流れになつてえ…

その…みんなの
彼氏とのセックス事情、とか

最初は適当に話を合わせてただけと
すぐに嘘がバレちゃって

めっちゃくちゃ
恥をかいちゃって…ううー…

(なんつもなく想像でいいの…。
ものすごくキモくて
バレたんだろうなあ……)

うーん…ネットとかで
そついう知識を調べるとかじゃ
だめだったの？

付け焼刃の知識じゃあ
ぼろが出てまた恥かくんだあ…
私知ってる…。

しゅん…

それに……

今時、学生のうちに
初体験済ませとかないと
重い女になるよとか言われたし……

それで僕に…

(その後…)

気になってる幼馴染がいる
って相談して…

「いっちらからその男の子に言い寄れば
男子なんてでっぴロリッちで行くって…!」

って背中押されたんだけどね…(

そういって…
それに

引っ込み事案な成海らしくないテンションだ

えへへ…

私と同じくらいウブな
ゆうくんだったら
ハードルもそんなに高くないし

ユウタくんだって
女の子から誘われることなんて
滅多にないんじゃないかなー？

この機に私にドーター

奪われちゃいなよぉ…♡

それに、ゆうくん私の胸見てた

はぁっ

そう言っつて俺の手を取っつて
おっぱいに触れる
1cm手前まで持つてきた。

はぁっ

ほら…♡

私成長期だから…

ゆうくんが知らない間に
こんなに大きくなつちやつたよ…?♡

んっ
んっ

（うん）

成海の身体…

中学の頃は胸も全然なかったし

髪も今より短くて…

全然色気なんてなかったのに

はぁ

はぁ

（え、ヒロすぎるよ）

こんなにおっぱいが大きくて

薄手のニット着て

誘ってくるなんて…！！

この時点で僕のメンロは
ギンギンと勃起しつつだ。

私の練習台になってくれたら
私のお、おっぱいも
好きにしていいから……

モジ。

はぁっ

はぁっ

モジ。

んんっ…

このまま抵抗しなかったら
OKだと思って襲っちゃおうっ。

わ、分かった
本当に僕でいいなら…

ん、ありがと…♡

はぁ…

はぁ…

それじゃあ…
最初は、キスの練習から…♡

すると…ずい、と身を寄せてきた彼女は

逃げられないように
俺の膝の上に乗ってきた。

距離を詰めてきて
顔を近づけられる…。

あ
あ
あ
あ
あ

完全に退路を断られた…。

顔近づいっ…!!
成海の顔が目の前につ…!!



め、目え瞑って!!

ゆうくんはキスの
練習台だから…
逃げちゃだめだからね…♡

うん…うん…!!!

ニム

キム

キム



ゆうくん
…ユウくん…♡ちゅ

初めて唇に感じる
柔らかい感覚が…。

成海の声、少し高くなってる…。
キスをしながら
何度も名前を呼ばれてる…。

hnan

ちゅ♡
♡♡♡

ちゅ♡

hnan

ふはっ……♡
はあっ……はあっ……

初キス……
本当にしっちゃった……♡

肩で息して荒く息を吐いて……
完全にスイッチ入ってるな。

ふはっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

わ、わたしキス上手いかな…
ちやんとできてる…?..

うん…

すごい柔らかくて甘酸っぱい感じ…

っ…!!
ありがとう…

でもまだ慣れないかも…
忘れないうちに
もつとする…♡





彼女のペースで
何度もキスをされると

い、息がっ…!!

(唇が触れている
だけののっ…)

おっしおっし

おっしおっしおっし(♡)

はぁっ

はぁっ

トロンっ

トロンっ

次は大人もキス…
れるおっ

回を塞ぐようにして

彼女は舌をずるりと差し込んでくる。

れろおっ♡

舌の粘膜と粘膜が柔らかく絡み合っ

経験したことのない

官能的な刺激に脳が支配される…。

れろおっ♡

れろおっ♡

ふはっ…

キス、やばいね…
これだけでも蕩けそう…

……っ!!

き、キスに夢中で
気付かなかったけど…

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

彼女は名残惜しそうに
僕の上から退く。

じゃあ、脱がすからね？
本当に脱がすからね！？

彼女は念を押すように言うと、
慣れない手つきで僕のズボンに手をかけ……





おわ…

はあ…

はあ…

ここ、これが…
本物………!!

フワ…

ビッ…

ビッ…



…スゴ…♡
お、おちんちんの裏側って
こんなになってるんだ…

(先っぽから
ヌルヌルが出てる…
友達が言ってた通りだ…)

(おいら
観察させてみる…)

はあ、

モジ、

モジ、

えっと…
どうすればいいかな？

触ればいい…？

はあ、

ええと…

大事なものを触るみたいに
そっと竿の部分を手で包んで…

上の方は敏感だから
優しくしてくれるといいかも…



分かった…

笑ってごごだよね…っ
でも下手だと思うから
痛かったら言ってるね？

ドキ

ドキ

(指細くん)
ひんやりしてる…

握られてる感覚が
自分の時と全然違う…っ

う…っ

ん…っ

ん…っ

しる…っ

そのまま優しく
上下に動かして…

こう…かな

はあ

んん

(想像してたより
おちんちん熱いんだっ…)

ごいんなの
私の中に入るのかな…)

はあ

うんうん、うん

早くてもいいかも…

んん

んん

んん

んん

おちんちん…擦りながら…っ

圧迫したりっ…
指を這わせたらくらうがなっ…

な、成海ちゃんっ…
手コキ上手だよっ…

このままされたら
イキそうかも…っ

あぐ…



動かし方に慣れてきて
手加減を知らずどんどん動きを早くしてらへ…

だめだ…イクっ…!!

チンポ扱きに集中している彼女は
俺の言葉が入ってきてない…



い、いッた…!!!♡

すう…うんないっつぽう
白のがビュルルって…!!!

はあ、
っ

はあ、
っ

（初めてなのに
お、おちゃん
イカせられるなんて…!!!）

ハ
っ

（もしかして私って
才能ある…?）

ハ
っ

ハ
っ

うう、あっけなく
イカされた…

成海ちゃん、
調子乗ってそんな
顔してるし…!

(ちゅっ♡と毎ていな…
性知識あんまりならっぽっい
んじかひかっしやめな…)

それじゃあ…
出したやつ、飲んでくれる？

えっ…

いっくらでも…？

性…

そうそう、

手コキとかフェラチオの後は
女の子が飲むんだよ？

(友達からは
そんなの聞いたことないけど
普通はするのかな…)

そっだよね…

普通は飲むんだよね…

わかった、よおし…

ドキ

ドキ

ドキ

あせ

あせ



意識するほど
すい〜独特のにおい…♡

思ってたより
ドロドロじや…

こんなのが
おちんちんから
出てくるんだ…。

そ、それじゃあ…
いただきます…!!





はあ...

はあ

んんん

んんん

はあ

んん

んん

んん

んんん

んん

んん

んん...♡

はあ

んん...♡



わん♡

いっしょ♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

飲んだよ…♡

うう…喉奥に残ってる感じがする…
これ本当に
みんな飲んでるの…?!

う、うん、
そうだよ

(密かにわろかまを覗いたけど)
ほんとに飲んでくれた…)

全部のめてえらいよ
成海ちゃん

うう...ユウタんと
からかってないよねっ

ニハニハ...
ごめんごめん...

もっ...

教えてくれたのは
ありがとうだけど

あくまでも私の練習台だっついで
忘れないでよねっ



あんなに濃い精液
飲んじゃったからかな

なんだか
気分がのつてきたかも…♡

そろそろ私も
我慢できなくなってきた…

本番、しよっか…♡





体験版はここまでになります！

**彼女とのあまあまなえっち練習の様子は
ぜひ、製品版にてお楽しみください♡**